

Red Data Book of Wakayama Prefecture

爬虫類の概要

玉井 済夫

和歌山県には8科18種の爬虫類（在来種）が生息する。外来種の生息も数種あるが、貴重な在来種については、その調査を続け、保全策を進めている。

紀伊半島沿岸部を北流する黒潮の分枝流の影響で、沿岸海域には暖流系の生物が多く生息している。この海域を回遊するウミガメ類は、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、ヒメウミガメ、オサガメが知られていて、これらのストランディング（漂着死体）も見られ、アカウミガメとアオウミガメが多く記録され、日本ウミガメ協議会にも報告している。今回の本書には新たにアオウミガメも加えた。

アカウミガメの県内での産卵については、第2回自然環境保全基礎調査（1979年、環境省）により初めて報告された。これを契機に、県内での産卵調査や保護活動をしている人々により、和歌山県ウミガメ情報交換会が結成され（1988年）、2年後には、三重県における活動団体も加わって、紀伊半島ウミガメ情報交換会となった（1990年）。それ以来、毎年、紀伊半島沿岸で上陸・産卵するアカウミガメについての情報交換会を開催している。また、紀伊半島ウミガメ情報交換会は日本ウミガメ協議会と連携しながら情報を共有している。

日高郡みなべ町千里の浜は、本州では最大のアカウミガメ産卵地で、和歌山県の名勝天然記念物に指定されている（1964年）。この千里の浜のアカウミガメの上陸・産卵については、後藤清氏が長年に亘り調査・研究・保全の活動を続けた。その後もみなべ町教育委員会及び地域の人々によって、その活動が引き継がれている。日本ウミガメ協議会としても、毎年、千里の浜に調査員を派遣して調査・研究を続けている。

千里の浜から南部の田辺市及び白浜町の海岸部は、かつては南部田辺白浜海岸県立自然公園であり、また、すさみ町から串本町までの海岸部は、熊野枯木灘海岸県立自然公園であった。この地域の海岸域は、暖流色の濃い生物相が非常に豊富であることから、2015年に、環境省はこの二つの県立自然公園を吉野熊野国立公園に編入した。

淡水棲のカメ類の内、クサガメは近年の研究により、江戸期に移入されたとしているが、本書では明治時代から生息する種は在来種の扱いにしている。ニホンイシガメの生息は、近年、少なくなってきたため、準絶滅危惧種とし、ニホンスッポンについては情報不足とした。タワヤモリは、かつて和歌山市大川（大阪府との県境）の海岸林に生息していたが、この10年間の調査では発見できなかったため、情報不足とした。トカゲ類については、ニホントカゲに加えて、近年、ヒガシニホントカゲが近畿地方の各地にいることが分かり、本県にも分布している。しかし、その分布の詳細については今後の調査を待たねばならない。

なお、ウミヘビ類については、本県海岸においていくつかの発見例があるが、その生態や生息状況については不明である。ウミヘビ類の国内の主な生息及び繁殖地は琉球列島とされており、本県で確認されている個体は黒潮に乗って偶発的に流れ着いたものと考えられている。繁殖地以外の国内における実態はほとんどわかっていないことから、今後の情報の蓄積が望まれる。

（参考文献）

- 1 紀伊半島ウミガメ情報交換会・日本ウミガメ協議会. 2019. 紀伊半島のウミガメ情報交換会～30年のあゆみ～. 162pp. 紀伊半島ウミガメ情報交換会, 和歌山.
- 2 日本自然保護協会. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書（両生類・は虫類）和歌山県（環境庁委託調査）. 37pp. 財団法人 日本自然保護協会, 東京.

- 3 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.

爬虫類の掲載種

● 準絶滅危惧 (NT)

アオウミガメ
アカウミガメ
ニホンイシガメ

● 情報不足 (DD)

ニホンスッポン
タワヤモリ

アオウミガメ *Chelonia mydas* (Linnaeus, 1758) カメ目 ウミガメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	---	---	-------------

成体は平均甲長 90 cm で、世界中の温帯域から熱帯域に分布する。国内では三陸海岸や日本海側の沿岸域を含め広く生息することが確認されているが、産卵は南西諸島や小笠原諸島の砂浜で行われる。国内の産卵期は 4 月から 9 月で、シーズン中に複数回産卵し、卵数は 1 回につき約 100 個。孵化した幼体は、海流に乗って外洋に広く分散するが、甲長が 30 cm 未満の個体についての生活はほとんどわかっていない。甲長が 30 cm を超えると沿岸での生活を始め、マクサ等の海藻やアマモ類等の海草を選択的に食べて成長すると考えられている。



選定理由 和歌山県南部を中心に亜成体及び成体が沿岸域で周年確認されているが、刺網漁や釣りによる混獲で死亡例が毎年報告されている。更に沿岸海域の磯焼けによる悪化で餌場となる藻場が消失している。

和歌山県南西部及び南東部の沿岸域では、ダイバーや漁業者、釣り人による目撃例も多く、漁港内への迷入や死亡及び衰弱した個体の漂着も確認されている。

本種は世界中で個体数が増加傾向にあり、近年、紀伊半島沿岸での目撃情報及び混獲、漂着についても増加している。和歌山県内全域を含めた混獲・漂着の実態把握が必要である。

日本沿岸は太平洋西部の様々な地域で生まれたアオウミガメの餌場となっている。和歌山県内沿岸も採餌海域として亜成体が周年を通して利用し、定着していると推定される個体も観察されることから重要な餌場となっていると考えられる。

執筆者 (平井厚志)

参考文献
・情報

- 1 亀田和成 (編). 2013. 日本のアオウミガメ. 122pp. 日本ウミガメ協議会, 竹富.
- 2 亀田和成・石原 孝. 2009. 日本沿岸におけるアオウミガメの消化管内容物. ウミガメニュースレター. 81. 17-23. 日本ウミガメ協議会, 大阪.
- 3 亀崎直樹 (監). 2012. ウミガメの自然誌 産卵と回遊の生物学. 301pp. 東京大学出版会, 東京.
- 4 紀伊半島ウミガメ情報交換会. 2021. 紀伊半島ウミガメニュース 77. 23pp. 紀伊半島ウミガメ情報交換会, 田辺.
- 5 日本爬虫両棲類学会. 2021. 日本爬虫両生類標準名和リスト (2021 年 4 月 22 日版). <http://herpetology.jp/wamei/> (2021 年 7 月 18 日アクセス).
写真: 平井厚志撮影

アカウミガメ *Caretta caretta* (Linnaeus, 1758) カメ目 ウミガメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
--------	------------	----	------	------------	---	--------------

成体は平均甲長 85 cm で、世界中の温帯域から熱帯域に分布する。ウミガメ類の中では、最も高緯度地域で産卵し、北太平洋では 5 月から 8 月にかけて南日本沿岸の砂浜海岸で産卵を行う。卵数は 1 回につき 80 個~150 個。卵は 50~70 日で孵化するが、孵化までの日数は砂中温度によって変化する。孵化した幼体は海流に乗って外洋へ分散する。その後、北太平洋を大きく回遊しながら成長し、甲長が 60 cm を超えると日本周辺に回帰すると推定されている。



選定理由

和歌山県内ではみなべ町、白浜町、串本町、那智勝浦町、新宮市の砂浜海岸ではほぼ毎年

選定理由

産卵が確認されている。特にみなべ町の千里の浜は和歌山県内でも離島以外ではほとんどの海岸林を含めた自然の状態が残された貴重な砂浜で、上陸産卵数においても本州では最大の産卵地として極めて重要である。この他、偶発的な産卵地を含めると、和歌山県内の多くの砂浜海岸で産卵が確認されている。

近年、和歌山県内主要産卵地では産卵数が減少しており、浸食による砂浜の後退、護岸工事や養浜、街路灯の設置等による環境の悪化が認められる。地域によっては野生動物による卵の食害や台風等の高波による卵の流失も確認されている。

定置網や底引き網による亜成体や成体の混獲が確認されているが、和歌山県内全域での混獲状況と個体群への影響については不明である。漁業による混獲実態の把握が必要である。

みなべ町の千里の浜は1964年に県の天然記念物に指定され、2015年に環境省は串本町からみなべ町（千里の浜）までを吉野熊野国立公園に編入し、また、2018年にはみなべ町においてウミガメ保護条例が制定されている。

執筆者（平井厚志）

参考文献・情報

- 1 後藤 清. 2010. ウミガメの観察（みなべ町千里の浜）2010年度. 31pp. みなべ町ウミガメ研究班, みなべ.
 - 2 亀崎直樹（監）. 2012. ウミガメの自然誌 産卵と回遊の生物学. 301pp. 東京大学出版会, 東京.
 - 3 紀伊半島ウミガメ情報交換会・日本ウミガメ協議会. 1994. ウミガメは減っているか～その保護と未来～. 120pp. 紀伊半島ウミガメ情報交換会, 田辺.
 - 4 紀伊半島ウミガメ情報交換会. 1998. 紀伊半島のウミガメ～十年のあゆみ～. 64pp. 紀伊半島ウミガメ情報交換会, 田辺.
 - 5 紀伊半島ウミガメ情報交換会・日本ウミガメ協議会. 2019. 紀伊半島ウミガメ情報交換会～30年のあゆみ～. 162pp. 紀伊半島ウミガメ情報交換会, 田辺.
 - 6 紀伊半島ウミガメ情報交換会. 2021. 紀伊半島ウミガメニュース 77. 23pp. 紀伊半島ウミガメ情報交換会, 田辺.
- 写真：平井厚志撮影

ニホンイシガメ <i>Mauremys japonica</i> (Temminck & Schlegel, 1838)		カメ目	イシガメ科
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012
			-
		国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

日本の固有種で、山間部及び丘陵地帯の河川や湖沼、低湿地周辺に生息する。和歌山県では、上記の陸水環境に加えて、その他灌漑用ため池周辺等、県内全域に生息するが、宅地や道路開発等によって上記生息地が失われつつある。

執筆者（竹中利明）



参考文献・情報

- 1 Edward, O. M. 1987. 両生・爬虫類 動物大百科 第12巻. 84-99pp. 平凡社, 東京.
 - 2 川添宣広. 2018. 日本の爬虫類・両生類生態図鑑. 240pp. 誠文堂新光社, 東京.
 - 3 清水善吉・玉井清夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
 - 4 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 写真：竹中利明撮影

ニホンスッポン *Pelodiscus sinensis* (Wiegmann, 1834) カメ目 スッポン科

県カテゴリー 情報不足 (DD) 旧県 2012 国 情報不足 (DD)

選定理由

水生生活を送る種で、河川の中・下流域や池、湖沼等に生息する。和歌山県では紀の川流域、有田川流域、熊野川流域等、全県に広く生息しているが、養殖種苗の逸出等による遺伝子汚染等が懸念されている。

執筆者 (竹中利明)



参考文献
・情報

- Edward, O. M. 1987. 両生・爬虫類. 動物大百科 第12巻. 84-99pp. 平凡社, 東京.
 - 川添宣広. 2018. 日本の爬虫類・両生類生態図鑑. 240pp. 誠文堂新光社, 東京.
 - 日本爬虫両棲類学会. 2021. 日本産爬虫両生類標準和名リスト (2021年9月19日版). <http://herpetology.jp/wamei/> (2021年9月25日アクセス)
 - 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
 - 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 写真: 竹中利明撮影

タワヤモリ *Gekko tawaensis* Okada, 1956 トカゲ目 ヤモリ科

県カテゴリー 情報不足 (DD) 旧県 2012 準絶滅危惧 (NT) 国 準絶滅危惧 (NT)

選定理由

タワヤモリは海岸林内に生息し、樹皮内や露岩の割れ目にすむ。この生息地に隣接する民家や農業施設には、同属のニホンヤモリが生息している。

和歌山県では、極めて限られた生息地のみが確認されていて、そこにおいても今回の調査では発見できなかったため、個体群の減少や消失が懸念される。

執筆者 (竹中利明)



参考文献
・情報

- Edward, O. M. 1987. 両生・爬虫類. 動物大百科 第12巻. 84-99pp. 平凡社, 東京.
 - 川添宣広. 2018. 日本の爬虫類・両生類生態図鑑. 240pp. 誠文堂新光社, 東京.
 - 柴田保彦. 1983. 和歌山県のタワヤモリ. Nature Study, 29 (7): 76.
 - 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
 - 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 写真: 玉井済夫提供